

「地域学」報告

—本学「地域学」のアンケートから—

田中 正一

1 はじめに

国は地域創生の推進として、地域への多様な支援を進めているが、町づくりにはヒト、モノ、カネが必要である。その中で地域活性化には人材が重要な要になるようだ。本稿では、本学学生が深谷市を中心とした地域について学ぶことにより、有意な人材として社会に輩出できることを支援する「地域学」についての取り組みを述べる。

平成28年度前期から本学の「地域学」が1学年選択科目として開設した。初年度は26名の履修者数であったが、平成29年度は100名を超える履修者数となった。1年目の「地域学」の評判を聞いて急増したと思われるが、履修学生は当科目をどのように考えているのかをアンケートを基に確認する。

2 地域学の履修について

今年度の「地域学」の履修内容は、初年度の講義内容及びフィールド・ワークの一部を変更しての内容である。

(1) 目的

本講座は、歴史、伝統、産業、行政、教育等の視点から地元地域を中心に講義する。これらの様々な知識から地域の課題・ニーズ、コミュニティ形成、まちづくりによる未来社会への意欲的な取組は、本学建学の精神である使命感、人生観、連帯感と相まって、グローバル社会に対応した国際的な社会人の育成を目指すものである。

(2) 授業方針

外部から地域の講師を招聘しオムニバス形式の授業を行う。また、フィールド・ワークとして、地域の施設の見学・体験を実施する。講座及びフィールド・ワークを通して、深谷市及びその近隣地域の歴史、伝統、産業、行政、教育などにおける地元地域について学ぶ。毎回コーディネータ（田中）

が同席し、講師の紹介や質疑等の役割を担当する。

(3) 到達度評価規準

- ①地域(深谷)における基礎知識について説明することができるか。
- ②地域の課題・ニーズ等からまちづくりについて考察し、説明することができるか。
- ③本講座から、自らの新たな発見と創造的な思考力を高めることができるか。

(4) 講義内容

回数	講義テーマ
1	深谷における地域政策（1）
2	深谷における地域政策（2）
3	渋沢栄一の生き方に学ぶ～人生のターニングポイント～
4	農業における地域と教育
5	フィールド・ワーク1（渋沢栄一記念館等）
6	フィールド・ワーク1（渋沢栄一記念館等）
7	コミュニティー論（1）
8	災害時におけるソーシャルメディアと情報発信
9	フィールド・ワーク2（深谷市関連施設等）
10	フィールド・ワーク2（深谷市関連施設等）
11	富岡製糸場と深谷の偉人たち
12	フィールド・ワーク3（富岡製糸場等）
13	フィールド・ワーク3（富岡製糸場等）
14	コミュニティー論（2）
15	まとめ

(5) 講義とフィールド・ワーク

① 講義

深谷市における地域政策および渋沢栄一関連については、地元深谷のみならず我が国の歴史にも触れる深い学びに至る。また、地域災害については、東日本大震災の福島第一原子力発電所事故後の情報発信について、またコミュニティ論では、地元で起業した造園業、食品加工などの地域の産業について学ぶ。

② フィールド・ワーク

○フィールド・ワーク 1

渋沢栄一記念館・生家，尾高惇忠生家

○フィールド・ワーク 2

印刷工場，旧煉瓦製造施設（ホフマン炉），酒造会社の見学

○フィールド・ワーク 3

富岡製糸場の見学

3 「地域学」アンケート結果

「地域学」の履修者数は、1年生88名、2年生11名、3年生4名、計103名である。当アンケートの回収率は、そのうちの78名（回答率72%）である。学年及び所属学科は以下のとおりである。

学年	人数
1	68
2	7
3	3
4	0

性別	人数
男	68
女	10

所属学科	人数
機械工学科	7
生命環境化学科	10
情報システム学科	27
情報社会学科	14
心理学科	10
無記名	10

「地域学」は1学年の選択科目のため、履修する学生は1年生がほとんどである。以下アンケートの設問に回答した結果を示す。回答数は一部空白があったり、複数回答があったりするので、常に78名とは限らない。

(1) 設問①

—「地域学」を履修した理由は何ですか。—

設問①	人数
1 シラバス等を見て興味・関心があったので履修した	38
2 就活や社会人として求められる資質を得るため	12
3 はっきりした目的はないが、何か得るものがあるだろう	36
4 周りの友人たちが履修するので決めた	4
5 その他	3

その他

- オープンキャンパスに活用したい。
- なんとなく「地域学」が面白そうだったから。
- 先人の知を学ぶために履修した。
- 教養の単位を取得したい。

(2) 設問②

—履修した結果、期待していた内容でしたか。—

設問②	人数
1 期待していたとおりの学習内容であった	35
2 内容が全体的に少し難しいが納得できる範囲であった	23
3 講師は熱心であるが内容を改善してほしい部分がある	14
4 期待とはかなりかけ離れていた	3
5 その他	3

その他

- 土曜日のためフィールド・ワークに参加できなかったのは残念である。

(3) 設問③

—特に興味・関心を持った講義がありますか。—

多くが渋沢栄一に関連した内容に興味・関心を抱いていたようだ。

(4) 設問④

—こんな講義があったら良いなど、思いつくことがあれば記述してください。—

- 話や見学だけでなく体験できる内容がほしい。(2)
- 講義内容についてアンケートを取り、学生の要望を取り入れる。
- 見学の企業を増やしてもらいたい。
- 興味を持つ面白い話をもっと聞きたい。(2)
- さきたま古墳など古代の埼玉についても深く知りたい。
- ソーシャルメディアについて広く学びたい。(2)
- 会社の内容よりは、どのように考えて製品等にしたのかを知りたい。
- 昭和の時代の深谷市の歴史を深く知りたい。
- 埼玉と周辺の地域とのつながりを知りたい。
- 地域に密着したスポーツの振興について知りたい。
- 実行力、行動力のある人の話をもっと聞きたい。

※ () 内は同一の回答数

(5) 設問⑤

—フィールド・ワークに出席してどのように感じましたか。—

設問⑤	人数
1 実際に現場を見学することで詳しく理解することができた	41
2 見学場所で説明が長かったり、見学だけでは面白くない	10
3 理由があって参加できなかったのが残念だった	14
4 土曜日に2時間分出席するのがつらかった	10
5 その他	3

その他

- 自由時間を設けて見学したほうが良い。
- 土曜日は出席が厳しい。バイトや振り替え授業がある。
- 古き時代の施設・設備を見て勉強になった。

(6) 設問⑥

—フィールド・ワークで特に興味・関心を持った場所はどこですか。—

設問⑥	人数
1 渋沢栄一記念館	11
2 中の家	5
3 尾高惇忠生家	1
4 印刷工場	12
5 旧煉瓦製造施設	2
6 酒造会社	3
7 富岡製糸場	29

① 渋沢栄一記念館

・渋沢栄一の人物について興味・関心があったから。(9)

② 中の家

・建物を見るだけでも歴史を深く感じた。(3)

④ 印刷工場

・印刷技術に興味があったから。(6)

・会社の対応に好感が持てた。職場を見て勉強になった。(4)

⑤ 旧煉瓦製造施設

・高校の時から地元の旧煉瓦製造施設が気になっていた。

⑥ 酒造会社

・酒造りの場所を初めて見学し印象的であった。(2)

⑦ 富岡製糸場

・教科書に載っている有名な場所に行き見学できた。(5)

・事前に講義で詳しく説明を受けていたのでよく理解できた。(3)

・多様な建築物・設備があり、印象的であった。(7)

・我が国の世界遺産を一見しておきたい。(10)

※ () 内は同一の回答数

(7) 設問⑦

—フィールド・ワークについて、改善点や新たな施設・設備および他の方法がありましたら記述してください。—

- 参加しやすい場所を増やしてほしい。
- 見学で見て回るだけではなく、自由に行動できる時間がほしい。
- 講義で紹介された荒船風穴等を見学したい。
- 自身で体験できる内容があるとよい。(2)
- 見学における時間的効率が悪い。また見学場所を増やしたい。(2)
- 他の場所についても検討してほしい。
- 帰校時間と帰りのバスの発車時間の連携を検討してほしい。
- フィールド・ワークは重要です。今後も改善・充実してください。
- 部活等で参加できなかったが、参加したかった。

※ () 内は同一の回答数

4 アンケートの考察

本学「地域学」が2年目で100名を超える履修者があったことは、学生に「地域学」に対する興味・関心があったと考える。各設問において「地域学」に対する学生の考え方がよく見てとれる。以下、各設問に対して考察する。但し、() 内の％は、その設問における全体数の割合である。

(1) 設問①

ガイダンスやシラバスにより「地域学」の授業内容に興味・関心を持った学生が38名(41%)いる。また、履修することで大学4年間で何かをつかんで卒業したいという学生が36名(39%)、また、就活において参考となることを期待している学生も多くいた。このことから、大学生スタートとしての1学年の授業は効果的であるといえる。

(2) 設問②

期待どおり、または少々講義内容が難しかったが納得できる範囲であると回答した学生が、全体の58名(74%)であった。このことから授業としての「地域学」を学生は概ね評価していると考えられる。しかしながら、改善及び期待外れが17名(22%)いることも課題である。そのため今後は内容を精査して、興味・関心を高め、より深い学びに至る講義およびフィールド・ワークの内容を検討したい。

(3) 設問③

洪沢栄一に関する内容が多かった。フィールド・ワークとともに洪沢栄一に関する興味・関心が高まっているようだ。今後も郷土深谷を中心とした歴史を学べる環境を地域と大学で連携して検討することが考えられる。

(4) 設問④

数人の学生から、聞くだけの講義や見るだけのフィールド・ワークではなく、体験を取り入れた内容についての要望があった。また、学生が興味を持ち、面白いと感じる内容を多く取り入れるよう要望があった。主体的、対話的で深い学びに至るようにアクティブラーニング等の視点を活用することが考えられる。

(5) 設問⑤

学生の41名(52%)は、現場見学によって、講義の内容が一層理解でき、興味・関心がさらに沸いてきたと回答している。その反面、都合で参加できなかったのは残念であるという書き込みもいくつかあった。さらに、体験を取り入れてほしいという要望もある。学生の要望を具体的にどのように取り入れるか検討することが必要と考える。

(6) 設問⑥

フィールド・ワークの場所として、世界遺産の富岡製糸場が29名(46%)で高い評価を受けた。意外と多くの学生は富岡製糸場を見学したことがないようだ。そのため他の場所と比較してインパクトがあったのだろう。また、地元の印刷工場の見学を評価する学生も12名(19%)いた。就活としての企業の情報収集、職場とはどのようなところかなどに関心があったようだ。洪沢栄一記念館についても11名(19%)の評価があった。

(7) 設問⑦

前述にもあるように、学生の回答の中に、フィールド・ワークに体験的な内容を入れてほしい、効果的な計画で見学場所を増やしてほしい、理由があって参加できなかったのは残念であるという要望があった。これらの要望は、今後「地域学」を発展させていくのに重要な指摘である。そのため、講義内容およびフィールド・ワークを地域と大学が一層の連携を進め

たり、大学の他教科とも関連させたりして検討することが求められるのではないかと考える。

5 「地域学」の評価

アンケートの結果から、講義については概ね評価があったと思われる。フィールド・ワークについては、深谷市および近隣の地域と連携し、体験できる内容や参加しやすい日程の検討が必要である。現在の段階での100名を超える履修学生数からさらに内容および量的に拡大することには限界があるが、本学「地域学」をさらに多くの学生が履修できる体制づくりを検討することも必要と考えられる。また、この科目を履修した後に、どのような大学生活や進路を進めていくのか。「地域学」を学ぶことによって、社会人としての心構え、マナー、スピリッツなどがどのように関わっているのか、それらはどのような効果として現れていくのかなどを検証することも必要と思われる。

6 終わりに

2年目の本学「地域学」に多くの学生が関心を持っていることが、今回のアンケートで確認できた。講師は地元の行政マン、名士、企業家、会社経営者、学者など様々な方をお願いしているが、皆様は多忙な中で時間を割いて授業準備をし、熱心な講義をしていただいている。コーディネータとして皆様方に感謝するとともに、この講義を受けた学生たちが有意な社会人となって行かれることを切に願うものである。

参考資料

アンケート内容

- 1 「地域学」を履修した理由は何ですか。
 - ①シラバス等を見て興味・関心があったので履修した。
 - ②就活や社会人として求められる資質を得るため。
 - ③はっきりした目的はないが、何か得るものがあるだろうと思って履修した。
 - ④周りの友人たちが履修するので決めた。
 - ⑤その他（下欄に記述する）

- 2 履修した結果、期待していた内容でしたか。
- ①期待したとおりの学習内容であった。
 - ②内容が全体的に少し難しかったが納得できる範囲であった。
 - ③講師の先生が熱心であったが内容を改善してほしい部分があった。
 - ④期待とはかなりかけ離れていた。
 - ⑤その他（下欄に記述する）
- 3 特に興味・関心を持った講義がありますか。2講義以内を番号で答えてください。また、その理由を記述してください。
- ①深谷における地域政策
 - ②渋沢栄一の生き方に学ぶ
 - ③農業における地域と教育
 - ④コミュニティー論1（「地域との関わり」）
 - ⑤災害時におけるソーシャルメディアと情報発信
 - ⑥富岡製糸場と深谷の偉人たち
 - ⑦コミュニティー論2（「商売と利益と地域貢献」）
- 4 こんな講義があったら良い等、思いつくことがあれば記述してください。
- 5 フィールド・ワークに出席してどのように感じましたか。
- ①実際に現場を見学することで詳しく理解することができた。
 - ②百聞は一見に如かずであるが、説明が長かったり、見学だけでは面白くない。
 - ③フィールド・ワークに理由があって参加できなかったので残念だった。
 - ④土曜日に2時間分出席するのがつらかった。
 - ⑤その他（下欄に記述する）
- 6 フィールド・ワークで特に興味関心を持った場所はどこですか。2施設以内を番号で答えてください。また、その理由を記述してください。
- ①渋沢栄一記念館 ②中の家 ③尾高惇忠生家 ④印刷工場
 - ⑤旧煉瓦製造施設 ⑥酒造会社 ⑦富岡製糸場
- 7 フィールド・ワークについて、改善点や新たな施設・設備及び他の方法がありましたら記述してください。

写真



渋沢栄一記念館



中の家



酒造会社



印刷工場



旧煉瓦製造施設



富岡製糸場